

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000645		
法人名	医療法人社団 鼎会		
事業所名	グループホーム郡上八幡パラの家 (A棟)		
所在地	岐阜県 郡上市 八幡町 初音140-1		
自己評価作成日	平成30年7月9日	評価結果市町村受理日	平成30年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan=true&JigyosyoCd=2171000645-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護福祉士・ケアマネジャー・看護師の資格を取得した職員が多数働いている。定期的に利用者の身体状況を確認するカンファレンスや虐待防止の勉強会を取り入れ、質の高い介護が提供できるよう努めている。月に2回、内科・心療内科の往診があり、医療面で不安なく過ごすことができています。また、地域ボランティアの協力も多く、様々なレクリエーションを提供できています。季節感を持って生活出来るよう季節に合わせた作品作りを行ったり、城下町花火や春祭りなどの地域の祭りにも参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺には民家が立ち並び、管理者と職員は、利用者が住み慣れた地域の中で、人として誇りを持って過ごせるよう支援している。職員は専門職として様々な資格を取得し、日々、自己研鑽を重ねている。また、看護師が職員として配置されており、日常の健康管理や医師との連携を密に行い、医療体制を充実させている。利用者の現存能力を維持するため、様々なレクリエーションも実践している。地域の行事には積極的に参加し、地域の一員として認識されている。職場環境についても、管理者と職員が日々話し合いながら改善し、職員定着率の向上が利用者の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(A棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域との関係性を重視し、ここで暮らす一人ひとりが地域社会の一員として、住み慣れた地域の中で、ゆったり穏やかに過ごせるための支援を理念としている。管理者と職員はその理念を大切にしている。	理念は、来訪者の目につきやすい玄関や居室に掲示している。利用者が、住み慣れた地域で、家庭的な雰囲気の中で、「自分でできる喜びと誇りの持てる生活」が送れるよう、管理者と職員は、理念の共有と実践を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動や祭りへの参加、協力を行い地域の一員として交流を図っている。また、中高生の体験実習の受け入れや幼稚園への訪問、そして各種ボランティアの参加を頂いている。	自治会を通じて、地域と事業所の行事情報を交換し、防災訓練、祭りの準備などに参加している。中高生の職場体験の受け入れや、定期的に幼稚園と交流するなど、地域の一員として日常交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括ケアネットワーク推進委員会に定期的に参加して、行政、医療、福祉が協同して実践出来るための意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や地域代表者、行政代表者のメンバーと災害時の対応や連絡、連携等話し合ったり家族の希望・要望を聞かせて頂き活かしていくための有意義な場となっている。	家族が参加しやすい日曜日に運営推進会議を開き、地域代表・行政・家族の半数以上が参加して意見交換をしている。利用者の現状、行事取り組み、ヒヤリハット事例を報告し、高齢化に伴う利用者の諸課題を話し合いながら要望を聞き、サービスにつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員に利用者の思いを直接聞いて頂き助言を頂いたり、地域包括支援センターからの事業所訪問で意見交換をさせて頂いている。また、地域包括ケアネットワーク推進委員会の委員として参加している。	困難事例の相談、介護保険の動向や法律の解釈、事業所の情報など、行政とは連絡を密にしている。運営推進会議の中で、市担当者が地域の高齢者の現状、参加者の質問に答えている。また、事業所も行政主催の会議に参加し、意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが身体拘束となる行為を理解し、身体拘束をしないケアを行っている。また、身体拘束対策委員会を立ち上げ、3ヶ月に1回、カンファレンスの中で身体拘束防止の勉強会を開催している。玄関の施錠については、事務所に職員がいる時は20時の施錠としており、それまでは自由に入出りできるようになっている。	身体拘束ゼロの取り組みを実践している。新しく設置された身体拘束対策委員会や3ヶ月に1回のカンファレンスで勉強会を開催し、身体的拘束についての理解を深め、ケアに活かしている。また外部研修にも参加し、職員全体で意見交換を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止について研修に参加したりミーティングで話し合う場を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることがないように努めている。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	経験が少なく支援できる体制が万全とは言えない。必要なケースが発生したら、地域包括支援センターに相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホームのケアに関する考え方や取り組みについて説明をしている。また、起こり得るリスクや重度化に対する対応・方針・医療連携体制を説明し、ホームの対応可能な範囲について同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回、家族に近況報告書を送っている。また、面会時に気軽に話ができる雰囲気を作れるよう努めている。家族に出来る限り運営推進委員会に参加して頂き全体的、個別的話し合いを行っている。要望等は、カンファレンスで話し合い反映させている。	運営推進会議に半数以上の家族が参加し、意見や要望を聞いている。担当職員が、月1回、利用者の暮らしの様子を記入した「近況報告書」を家族に送付している。今後は報告のみでなく、報告に対する家族の気持ちを伺う双方向の取り組みを工夫中である。	運営推進会議参加の家族に、利用者を変えた個別の時間を設定し、希望や要望をゆっくり話し合う事を検討中である。事業所、家族がケアの両輪となり、さらなる利用者のサービスの向上につながることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや新年会、忘年会など日頃からコミュニケーションを図ることにより、意見や要望を聞き出すように努めている。	管理者は、日々、業務の中で、職員が話しやすい雰囲気づくりに努め、意見・要望をその都度聞き、検討の上、改善に取り組んでいる。また、新年会や忘年会でも、全体でコミュニケーションを図り、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職が上がることで昇給に反映させている。また、資格修得に向け母体法人が協力し、安心して資格が修得していけるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自が研修案内を閲覧して、希望があれば受講できるようにしている。また、必要な研修は業務として受けられるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて、他施設との交流を図ると共に情報交換も行っている。また、関係機関の研修や勉強会に自由に参加できるよう業務日誌に掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接の際、施設内を見学してもらい、本人の話を聞き、不安なことや希望・要望を確認し、安心してもらえるよう努めている。また、担当のケアマネからも情報を収集し、本人との信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初に施設を見学してもらい、現在家族が困っていることや不安・要望を聞き、本人の趣味、生活歴、出来ること出来ないことを確認し、希望に添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望・要望・必要とすることを面接で聞き、担当ケアマネからの情報もふまえ、職員間で話し合い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の話を傾聴し、できる事を行ってもらい、職員と共に作業をする時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態や様子を月1回のお便りで家族に報告している。それ以外でも、本人の状態に変化があった場合は、その都度電話で連絡をし、必要な場合は面会・外出をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の家族、友人、知人が面会にみえたときは、本人の居室でゆっくり話ができるよう支援している。また、家族にお願いして、馴染みの美容院へ外出している。	馴染みの場所や知人の家近くを車で通り、昔の記憶が風化しないように支援を行っている。また、知人の面会時には、ゆっくりくつろぎ、楽しめるよう配慮している。個々の外出希望は、家族に協力を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格・嗜好・特技などの把握に努め、利用者の人間関係や相性も考慮し、孤立することなく、互いに支え合い関わっているよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後、次のサービスへの情報提供を行なっている。また、契約終了後も依頼があれば相談や支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話など本人と話をすることで、本人の思いや意向の把握に努めている。困難な方には、本人の思いを表情や行動から汲み取り、また家族にも相談しながら本人の思いに寄り添うよう努めている。	職員の優しく穏やかな対応により、利用者に安心感が生まれ、本音の会話が成り立っている。職員は、入居前のアセスメントを参考に、日々の利用者の状態を理解し、個別ケアの際の会話でも、一人ひとりの思いや希望を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の今までの暮らしや楽しみなどを本人・家族から聞いたり、前回のケアマネジャーから情報をもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、一人ひとりの有する力を見極め、月1回のカンファレンスで話し合い、現状の把握や職員間での情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者に対して担当職員を決め、本人の希望や家族の要望を聞き、月1回のカンファレンスで話し合いながら、今その方に必要なケアプラン作りを努めている。	介護計画作成の際には、家族の訪問時に、意見や要望を聞いている。介護記録をもとに、担当職員、医師、専門職を交えて十分に話し合い、現状に即した介護計画を作成している。作成された計画は、家族に説明し理解を得ている。	利用者の今の生活維持を目標にした介護計画は、職員の知恵と工夫により実践されている。今後、利用者の高齢化、重度化に対応しながら、目標に向けた介護計画の実践に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子・ケアの実践や結果・気づきやアドバイスなど介護記録に記入し、職員間の情報共有やケアプランの見直し等に活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望、要望に添えるよう、カンファレンスで話し合いながら、ニーズに柔軟に対応できるよう努めている。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力による避難訓練・各種ボランティア(話し相手・音楽療法・日本舞踊)等地域住民の方達の参加も頂き支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に利用者の状態を把握し、本人や家族の希望を確認しながら主治医を決定している。主治医による定期的な往診を月に2回行っている。また、急変時や必要に応じて病院に付き添い受診の支援をしている。	かかりつけ医の利用については、事業所の方針を説明し、家族・利用者が選択をしている。全員が協力医となり、月2回の往診を受けている。また、看護師が職員として配置されており、医師との連絡が、その都度行われ、安心な医療体制を充実させている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を2ユニットに1名配置し、夜間帯や急変時には連絡し指示を受けたり、状態によっては駆けつけてもらい対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、利用者の身体状況や生活状況の情報を提供している。また、ケースワーカーと常に情報交換し、退院時には、スムーズに施設での生活に戻れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、主治医に相談し、本人や家族と話し合い方針を決定している。	契約時に、重度化や終末期に向けた事業所の取り組み指針を説明し同意を得ている。身体の変化に伴い、早い段階で関係者が話し合い、家族の希望に沿った、より良い選択ができるよう、情報を提供し方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変・事故発生時に備え、24時間対応出来るように医療連携体制をとっている。事故発生時には、事故報告書を作成し、職員間で共有し対策を検討している。また、誤嚥やAEDの講習など受け対応方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力のもと、夜間の火災や地震を想定した避難訓練を年2回実施している。また、ホーム独自の災害時対応マニュアルを作成し、備蓄も準備している。	年2回消防署指導の下、夜間想定を含めた火災訓練を実施し、器具の取り扱い、連絡網の確認、関係機関への連絡などを行っている。地域の防災訓練にも参加し、緊急時には、地域と協力し合う体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。また、利用者からの声には、受容と傾聴の姿勢で対応するよう努めている。	職員は、常に利用者の気持ちに寄り添い、受容と傾聴の姿勢で対応するよう努めている。職員会議でも、日々のケアを振り返りながら、利用者的人格を尊重し、プライバシーを損ねない会話や支援を実践しているかを話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や態度から、利用者の思いをくみ取り、それを表現出来るよう働きかけ、本人が自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活に対する思いや希望を尊重し、一人一人のペースに合わせるよう努めている。また、集団生活の中でも、出来る限り希望に添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた身だしなみやオシャレが自己決定出来るよう支援している。3ヶ月ごとに美容師に来所してもらいカットしてもらっている。行きつけのある方は、家族に協力して頂き、カットに行かれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを利用者の残存能力を活かしながら行ってもらっている。週4回は利用者の好み旬の食材を取り入れた献立を立て喜んで頂けるよう支援している。嫌いな食べ物がある利用者には、別の食べ物を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、管理栄養士が栄養のバランスを考え立てている。また、食事摂取量は、毎食チェックし、変化があれば主治医や管理栄養士に報告・連絡・相談をしている。水分は、一人一人に合わせて回数や形態をかえ、必要量摂取出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人一人の状態や残存能力を把握し、それぞれに適した口腔ケアや清潔保持が出来るよう支援している。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて、声掛けや介助を行っている。夜間は安全を第一にポータブルトイレを使用する人もあるが、見守りながらそれぞれの状態に合わせて支援を行っている。	職員は、利用者の排泄パターンを把握し、さりげない声かけや見守りをしながら、トイレでの排泄を支援している。職員間で話し合い、利用者個々に適切な排泄用品を選択し、家族の費用負担軽減にもつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩など運動を日課の中に取り入れている。便秘がちな方には、オリゴ糖を入れ水分補給してもらっている。また、医師による服薬コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴を基本に、本人の体調や希望に合わせてながら対応している。拒否のある利用者には、タイミングを変えたり、シャワー浴や清拭を行っている。	入浴は週2~3回であるが、利用者の状態に合わせて、清拭やシャワー浴など、柔軟に対応している。ゆっくりと個浴を楽しめるよう、コミュニケーションをとりながら、介助と見守りをしている。利用者の「気持ちよかった」の一言が、職員のやりがいにつながっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの寝具を持ってきてもらい安心して休息してもらっている。また、体調や気分にあわせて休息されたり、換気や室温に気を配り快適に過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬ファイルを作成し、服薬している薬の目的や副作用など確認できるようにしている。服薬時は、名前と日にちを再度確認し、誤薬に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや日々の生活の中から生活歴や経験を把握し、一人一人に合った役割や楽しみ・生きがい・気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所内や玄関先への移動が主となっている。玄関先での外気浴やレクリエーションを楽しんでいる。日常的な外出は利用者の重度化もあって、困難になってきているが、喫茶店に行ったり、ドライブに出掛けたりしている。家族との外出や外泊などできるよう支援している。	利用者の健康状態や天候などを考慮しながら、玄関先で外の空気に触れる機会を作っている。また、時には職員と喫茶店やドライブなどに出かけている。普段行かない場所への外出を希望する利用者には、家族の協力や地域の協力を得て、実現できるよう取り組んでいる。	

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は施設で行っているが、希望時には使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には、職員が連絡をとったり、必要に応じて本人に話して頂いている。また、携帯電話を持っている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに合った作品作りをし、共用の場や居間に飾り、季節感を感じている。	事業所全体に木のぬくもりが感じられ、廊下は広く、車椅子でも安全に往来ができる。健康にも配慮して加湿器を設置している。また、季節の花や手作り作品から、利用者が季節を感じることができるよう工夫している。対面式のキッチンでは、職員が見守りながら、利用者との会話を交わし家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	良い環境になるよう、テーブルの位配置やテレビの位置を変える等の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、本人の思いに添った空間になるようにしている。また、家族とも相談し、安全に過ごせるようベットやダンス等の配置を工夫している。	居室の扉には、自慢の作品を張り、自分の部屋をわかりやすくしている。窓が大きく明るい。クローゼット、洗面台が設置され、好みの洗面用具が用意されている。安全に過ごせるよう、利用者の生活動線を考慮して ベッドの配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が安全に生活が送れるよう、物品の配置や風呂、トイレ等の案内板を表示し工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000645		
法人名	医療法人社団 鼎会		
事業所名	グループホーム郡上八幡バラの家 (B棟)		
所在地	岐阜県 郡上市 八幡町 初音140-1		
自己評価作成日	平成30年7月9日	評価結果市町村受理日	平成30年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(B棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域との関係性を重視し、ここで暮らす一人ひとりが地域社会の一員として、住み慣れた地域の中で、ゆったり穏やかに過ごせるための支援を理念としている。管理者と職員はその理念を大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動や祭りへの参加、協力を行い地域の一員として交流を図っている。また、中高生の体験実習の受け入れや幼稚園への訪問、そして各種ボランティアの参加を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括ケアネットワーク推進委員会に定期的に参加して、行政、医療、福祉が協同して実践出来るための意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や地域代表者、行政代表者のメンバーと災害時の対応や連絡、連携等話し合ったり家族の希望・要望を聞かせて頂き活かしていくための有意義な場となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員に利用者の思いを直接聞いて頂き助言を頂いたり、地域包括支援センターからの事業所訪問で意見交換をさせて頂いている。また、地域包括ケアネットワーク推進委員会の委員として参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが身体拘束となる行為を理解し、身体拘束をしないケアを行っている。また、身体拘束対策委員会を立ち上げ、3ヶ月に1回、カンファレンスの中で身体拘束防止の勉強会を開催している。玄関の施錠については、事務所に職員がいる時は20時の施錠としており、それまでは自由に出入りできるようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止について研修に参加したりミーティングで話し合う場を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることがないよう努めている。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	経験が少なく支援できる体制が万全とは言えない。必要なケースが発生したら、地域包括支援センターに相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホームのケアに関する考え方や取り組みについて説明をしている。また、起こり得るリスクや重度化に対する対応・方針・医療連携体制を説明し、ホームの対応可能な範囲について同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回、家族に近況報告書を送っている。また、面会時に気軽に話ができる雰囲気を作れるよう努めている。家族に出来る限り運営推進委員会に参加して頂き全体的、個別的な話し合いを行っている。要望等は、カンファレンスで話し合い反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや新年会、忘年会など日頃からコミュニケーションを図ることにより、意見や要望を聞き出すように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職が上がることで昇給に反映させている。また、資格修得に向け母体法人が協力し、安心して資格が修得していけるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自が研修案内を閲覧して、希望があれば受講できるようにしている。また、必要な研修は業務として受けれるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて、他施設との交流を図ると共に情報交換も行っている。また、関係機関の研修や勉強会に自由に参加できるよう業務日誌に掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接で、施設内の見学や本人と話をすることで、本人の不安または要望などに耳を傾けながら本人との信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接で、家族に施設内の見学をもらい、家族の悩み、不安・要望などを聞き、その希望に添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接で、本人、家族の希望・要望を聞くことで、必要とする支援を見極め、対応できるよう職員間で話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、暮らしを共にする者として、利用者と話をしたり、一緒に作業や活動の中で、互いに関わる時間を大切にし、安心して共に生活出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を、月1回のバラ便りで家族に報告している。また、本人の希望や体調の変化時には電話連絡にて対応している。家族の無理のない程度で面会や外出の協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族の面会時は、本人の居宅でゆっくり話ができるよう支援している。また、職員と一緒に散歩やドライブに出掛けたり、家族をお願いをして、美容院や公園、自宅などに外出をされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格・特徴・利用者同士の人間関係などの把握に努め、一人ひとりに合った活動や利用者同士が関わり合い、支えながら生活出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後、次のサービスへの情報提供を行なっている。また、契約終了後も依頼があれば相談や支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話など本人と話をすることで、本人の思いや意向の把握に努めている。困難な方には、本人の思いを表情や行動から汲み取り、家族にも相談しながら本人の思いに寄り添うよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の今までの暮らしや楽しみなどを本人・家族から聞いたり、前回のケアマネジャーから情報をもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、一人ひとりの有する力を見極め、月1回のカンファレンスで話し合い、現状の把握や職員間での情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が本人の希望や家族の要望を聞き、月1回のカンファレンスで共有している。情報を素に、その方に必要なケアプラン作りに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子・ケアの実践や結果・気づきやアドバイスなど介護記録に記入し、職員間の情報共有やケアプランの見直し等に活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望、要望に添えるよう、カンファレンスで話し合いながら、ニーズに柔軟に対応できるよう努めている。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力による避難訓練・各種ボランティア(話し相手・音楽療法・日本舞踊)等地域住民の方達の参加も頂き支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に利用者の状態を把握し、本人や家族の希望確認しながら主治医を決定している。主治医による定期的な往診を月に2回行っている。また、急変時は病院に付き添い受診等の支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を2ユニットに2名配置し、夜間帯や急変時には連絡し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、利用者の身体状況や生活状況の情報をサマリーで提供している。またケースワーカーと常に情報交換し、退院時にはスムーズに施設での生活に戻れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に今後の方向性を本人、家族に確認している。また本人の状態を見ながら、その都度話し合いの機会を設けている。重度化した場合には、主治医に報告、相談し本人や家族と話し合い方針を決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変・事故発生時に備え、24時間対応出来るように医療連携体制をとっている。事故発生時には、事故報告書を作成し、職員間で共有し対策を検討している。また、誤嚥やAEDの講習などを定期的に受け対応方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力のもと、夜間の火災や地震を想定した避難訓練を年2回実施している。また、ホーム独自の災害時対応マニュアルを作成し、備蓄も準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、受容と傾聴に努め、誇りやプライバシーを損ねない対応に心掛け対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との信頼関係を築き、思いや希望を表出してもらえよう働きかけている。また、本人の様子からも気持ちを汲み取れるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、心身の状態に合わせて居室で過ごして頂いたり、手作業、テレビ鑑賞、ゲーム等好きな事を行なって頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた身だしなみができるよう、好みに合った服を選んで頂けるよう支援している。また、3ヶ月に1度の割合で頭髪のカットができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、食器洗いを利用者の残存能力を活用しながら職員と共に行なっている。また、利用者の好みの食品や季節を感じる食材を献立に取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が栄養のバランスを考えて立てている。食事摂取量は毎日チェックし変化があれば、主治医や管理栄養士に報告、相談し指示を仰いでいる。水分は一人ひとりに合わせて回数、形態などを変えて必要量摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに適した口腔ケアを、利用者の残存能力を活かしながら支援している。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は本人のできる力を見極め、声掛け・見守り・一部介助を行なっている。また、個々の様子を観察することで、排泄パターンを把握し声掛けや誘導をすることで、失敗を少なくできるよう心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分補給の中で、利用者の状態に合わせて個々にオリゴ糖を使用したり、体操や散歩などを随時行なっている。また、希望される利用者にはヤクルトを飲んでもらったり、医師の指示により服薬コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴をローテーションで行なっている。利用者の体調を考慮したり、順番のこだわりや拒否される利用者にはタイミングを図り柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や本人の体調に応じて休息してもらったり、換気や室温に気を配り快適に過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬用のファイルを作成して、服薬している薬の目的や副作用など確認できるようにしている。内服時は名前と日時を再確認し、手渡し、一部介助を行ないながら服用確認を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや日々の生活の中で、本人の生活歴や経験を把握し、一人一人に合った役割や楽しみ・生きがい・気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望がある場合はドライブ・玄関先での外気浴などを楽しんで頂いている。また、家族の協力のもと外出・外泊などができるよう支援している。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本施設が行なっている。本人の希望があった場合は、立替にて買物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、いつでも電話でき安心した生活が送れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所が分かるよう入り口に貼り紙をしている。毎月、季節を感じられる作品を利用者と作成し、居間や居室入り口に飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にある机を皆で囲み、カルタや数字合わせ等のゲームを楽しまれたり、また個別で塗り絵や作品作りを楽しめるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や馴染みの物・夫や家族の写真など持って来て頂き、少しでも落ち着ける空間を作れるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自立した生活ができるよう、ベットの柵や手摺りをつけたり、夜間はPTイレを設置し、1人でも安全に排泄ができるよう工夫している。		